

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- エンパワメントスクール(ES)としての役割を十分に果たしながら、成城高校独自の強みを活かし、社会で自律し自立することで社会に貢献できる人材を育成する学校
- 学びを大切にし、基礎基本の学力充実と夢実現の発展的学力の養成。
 - 規範意識を身に着け、自己と他者を大切にできる人間育成と安心で安全な学校。
 - 自己有用感に満ち、社会貢献できる知識とスキルの習得。

2 中期的目標

- 1 エンパワメントスクール(ES)としての役割を十分に果たすとともに、成城高校がめざす ES としての成果をあげるための取り組み(1 年生)
- (1) ES の基本である学び直し学習を着実にを行うための取組み(1 年生の授業について)
- ア 学習効果をあげるための工夫
- ・ 0 限目授業への出席を強力に進める。
 - ・ 各教科で宿題を課す等、授業以外の家庭学習等の時間を増加させる工夫を行う。
 - ・ 「わかる授業」「楽しい授業」を実現するためアクティブラーニングの視点に立った、授業の取り組みを進め学ぶ意欲と姿勢を育てる。
 - ・ 遮光カーテン設置により、「タブレット端末の活用」「電子黒板の活用」を強力に進めることで、居眠り防止等授業への集中度を高める。
 - * 0 限目授業への出席者数を平成 28 年度も維持(平成 27 年度 1 年生は 95%)し、それを継続する。
 - * タブレット端末を活用した授業を 28 年度は 30%の教員が実施(平成 27 年度は教員の約 15%が活用)する。
 - * 電子黒板使用率を平成 28 年度は全授業(実習系・実技系以外)の 50%(平成 27 年度は電子黒板未設置)とする。
 - * 年度末学力調査で、平均点 75 点以上とする。
- イ コミュニケーション力の向上
- ・ 2 学期末に、外部から有識者を招聘し公開プレゼンテーションを実施、外部審査員による評価・講評会を行う。
- (2) 希望進路実現をめざし、高いモチベーションを維持するための取組み
- ア 社会で役立つ資格等を取得するための取組み
- ・ 1 年生全員に実用英語検定・漢字検定等の 1 つ以上を受験させ、またそのための学習の機会を設ける。
 - * 平成 28 年度 1 年生の実用英語検定または漢字検定の 3 級・準 2 級合格者のべ 80 名(平成 27 年度は全学年合計 37 名合格)をめざす。
- イ 数学・英語の進学講習の実施
- * 平成 28 年度は 1 年生対象の進学講習を週 4 時限以上(平成 27 年度は 4 時限)実施し、数学・英語とも各 40 名の生徒の参加(平成 27 年度は 15 名)を目標とする。
- 2 生徒が高い規範意識をもち、安心して充実した高校生活を送ることのできる学校づくり
- (1) いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応
- ア 個々の生徒に応じたきめ細かな指導
- ・ 支援コーディネータを核とした支援委員会とスクールカウンセラー、及びその下部組織としてのサポートチーム(配慮を要する生徒個々に組織した、担任を中心とした小組織)の強化
- イ いかなるいじめも決して許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導
- ・ あらゆる機会をとらえた校長による生徒への訴えを継続する。
 - * 中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ新入生の登校改善維持(平成 27 年度入学生は全員が改善)
 - * 停学人数(平成 27 年度は前年度より 22%減少)と総停学日数(27 年度は前年度より 29%減少)を 28 年度前年比 10%減少させる。
- (2) 生徒が充実した高校生活を送るための取組み強化
- ア 学校生活を大切にさせるための取組み強化
- ・ 遅刻・欠席防止指導強化
 - ・ 遅刻・欠席時の保護者からの提出される証明文書をプリントからノート形式に変更することで、家庭との連携を一層強化する。
 - ・ 入学式での部活動勧誘や体育祭・文化祭等の行事運営における生徒会の関わり強化などにより、生徒の自主性の育成を図る。
 - * 平成 28 年度総遅刻回数 15%減(平成 27 年度は前年度に比べ 22%減少)とする。欠席日数 15%減(平成 27 年度は前年度に比べ 32%減)とする。
 - ・ アルバイト制限維持
- イ 部活動の活性化
- * 全学年生徒対象部活動紹介を継続実施し、新入生全員の体験入部 3 日を維持
 - * 校長による日々の部活動練習状況の巡回観察と公式試合応援の継続
 - * 部活動加入率(平成 27 年度 58.9%)平成 28 年度 65%を目標とする。
- ウ 教職員にとっての職場、生徒にとっての生活の場としての学校環境の整備
- ・ 職員室の整理整頓と「机上の本立て 1 段のみ」の継続。「ゴミの落ちていない学校」を継続するため校長による巡回と教員への徹底指導継続
 - ・ 生徒の自己有用感と高校生としての自覚をもたせるため、英語の授業中以外、教員が生徒に対して(姓でなく)名前で呼ぶことを原則禁止とし、ほめるときには「ありがとう」の言葉を添えるように努める。
- * 保護者対象学校教育自己診断で、学校に対する満足度(平成 27 年度は 85.8%)を 28 年度は 90%とする。
- * 生徒対象学校教育自己診断で、成城高校に「入学してよかったと思う」回答(平成 27 年度は 63.4%)を平成 28 年度は 80%とし、平成 30 年度には 90 以上をめざす。
- * 中退率維持(平成 27 年度は 0.7%)
- 3 進路保障
- (1) 学力充実

ア　0 限目学習の 2 ・ 3 年生参加者増加	
＊ 0 限目学習の参加者を 2 年生 ・ 3 年生各 90％ ・ 85％(平成 27 年度は、 2 年生 ・ 3 年生各 85％ ・ 50％の生徒が参加)をめざす。	
イ　公開授業 ・ 研究協議の維持	
＊ 公開授業 65 講座(平成 27 年度約 58 講座)とし、また全教員参加グループワーク型研究協議を維持する(平成 27 年度は年 3 回実施)。	
ウ　各教科で宿題を課す等、授業以外の家庭学習等の時間を増加させる工夫を行う。	
エ　「アクティブラーニングの視点に立った授業」の実践 ・ 充実	
＊ 「100%講義型一斉授業」の廃止。生徒の主体的 ・ 能動的学習スタイルを確立する。	
＊ 生徒対象学校教育自己診断で、「授業が充実している」回答を平成 28 年度は 65%とし平成 30 年度には 80％(平成 27 年度は全学年合わせて「充実している」 58.2%)をめざす。	
(2)進路指導体制強化による進路未決定者の減少	
ア　進路指導部主導型の進路指導体制構築	
・ 大学 ・ 短大進学、就職 ・ 公務員 ・ 専門学校、看護医療の 4 つの係に担当を明確化し、学年団への指導と進路希望別に生徒への直接指導を行う。	
＊ 28 年度は、難関大学進学 3 名(平成 27 年度は 0 名)、保育士 ・ 看護師 ・ 栄養士を標榜する短大進学 8 名(平成 27 年度は 4 名)とし、看護師 ・ リハビリ ・ レントゲン技師 ・ 柔道整復師 ・ 臨床検査技師等有用な医療系専門学校進学 8 名(平成 27 年度 4 名)とする。	
イ　優良企業就職実現のための取組み強化	
・ 学校斡旋就職希望者への指導強化	
・ 関西に本社をもつ優良企業の求人を 2 社以上増やす。	
ウ　資格取得 ・ 検定試験合格に向けた取り組み維持	
・ 生徒 ・ 保護者への周知 ・ 指導強化	
＊ 資格取得者 ・ 検定試験合格者を平成 28 年度はのべ 500 名(平成 27 年度約 400 名)とし、その後 3 年間年 3%増を目指す	
＊進路未決定卒業生率(平成 27 年度は 2％)を 28 年度以降維持する。	
4　平成 29 年度本校近隣の高校が E S として再編されることに向けた情報宣伝活動の強化と、地域に見守られ地域に貢献できる学校づくり	
(1)　平成 29 年度入学者選抜志願者確保	
ア　「チーム成城」での組織的な情報発信	
・ 学校訪問数維持	
＊ 中学校進路指導主事訪問 50 校(平成 27 年度 39 校)を組織的に取り組み強化しそれを維持する。	
・ 学校説明会や地域における説明会への管理職を中心に組織的に取り組み、経験の浅い教員にも経験を積ませる。	
＊ 中学 2 ・ 3 年生徒 ・ 保護者 ・ 中学校教員等を 7 回開催し、計 2000 名の参加をめざす。(平成 27 年度は生徒 ・ 保護者向け 10 回約 1800 名、中学校教員向け等 3 回合計 80 名参加)を維持する。	
＊ 中学校 PTA 協議会主催進路説明会 12 回 ・ 中学校での生徒 ・ 保護者対象説明会 6 回 ・ 中学校等での教員対象説明会 4 回(平成 27 年度は各 11 回 ・ 9 回 ・ 7 回)とし、それを維持する。	
・ 28 年度より新たに「情報処理部(3 名)」を創設し、校務処理等とともにホームページの充実を図る。	
＊ 平成 29 年度入学者選抜において入学者選抜志願倍率を 1.8 倍(28 年度入学者選抜は倍率 2.18 倍)としそれを維持する。	
イ　地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり	
・ 地域の諸機関 ・ 事業所との交流 ・ 連携	
ウ　文化祭 ・ 体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。	
＊ 文化祭 ・ 体育祭来場者数(平成 27 年度は 814 名)を平成 28 年度は 1000 名とする。	

【学校教育自己診断の結果と分析 ・ 学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 エンパ ワメント スクール(ES)としての役割を十分に果たすとともに、 成城高校がめざすESとしての成果をあげるための取り組み(1年生)	(1)ES の基本である 学び直し学習を着 実に行うための取 組み(1年生の授 業について) ア 学習効果をあげ るための工夫	(1) ア・0 限目授業への出席を強力に進める。 ・各教科で宿題を課す等、授業以外の家庭 学習等の時間を増加させる工夫を行う。 ・「アクティブラーニング 100%実施」 ・「タブレット端末の活用」強化 ・「電子黒板の活用」強化 を強力に進める。	ア ・0 限目授業への出席 者数維持(平成 27 年度 1 年生 95%) ・すべての授業にペア学習 など、生徒の主体的学習活 動を保証する。 ・タブレット端末を活 用した授業を 30%の 教員が実施(平成 27 年 度は教員の約 15%が活 用) ・電子黒板使用率を全 授業の 50%(実習系・実 技系以外)で実施(平成 27 年度は電子黒板未設 置) ・年度末学力調査で、平 均点 75 点以上とする。	
	イ コミュニケーシ ョン力の向上	イ・2 学期末に、外部から有識者を招聘し公 開プレゼンテーションを実施、外部審査 員による評価・講評会を行う。	イ 評価指標なし	
	(2)希望進路実現を めざし、高いモチ ベーションを維持 するための取り組 み ア 社会で役立つ資 格等を取得するた めの取り組み	(2) ア・1 年生全員に実用英語検定・漢字検定等 の 1 つ以上を受験させ、またそのための学 習の機会を設ける。	(2) ア・平成 28 年度 1 年生の実 用英語検定または漢字検 定の 3 級・準 2 級合格者 のべ 50 名(平成 27 年度は 全学年合計 37 名)	
	イ 数学・英語の進 学講習の実施	イ 数学・英語の進学講習の実施	イ・1 年生対象の進学講習 を週 4 時限以上(平成 27 年度は 4 時限)実施し、数 学・英語とも各 40 名の生 徒の参加(平成 27 年度は 15 名)	

2 生徒が高い規範意識をもち、安心して充実した高校生活を送ることのできる学校づくり	(1)いじめられ経験や不登校経験をもつ生徒への対応 ア 個々の生徒に応じたきめ細かな指導 イ いかなるいじめも決して許さない・見逃さない指導と、生徒の実態に合わせた生徒指導 (2)生徒が充実した高校生活を送るための取り組み強化 ア 学校生活を大切にさせるための取り組み強化 イ 部活動の活性化 ウ 教職員にとっての職場、生徒にとっての生活の場としての学校環境の整備	(1) ア・個々の生徒に応じたきめ細かな指導 ・支援コーディネータを核とした支援委員会とスクールカウンセラー、及びその下部組織としてのサポートチーム(配慮を要する生徒個々に組織した、担任を中心とした小組織)の強化 イ・あらゆる機会をとらえた校長による生徒への訴えを継続する。 (2) ア・遅刻・欠席防止指導強化 ・アルバイト制限維持 イ ・生徒会を中心とした部活動活性化促進 ウ・職員室の整理整頓と「机上の本立て1段のみ」の継続。「ゴミの落ちていない学校」を継続するため校長による巡回と教員への徹底指導継続 ・生徒の自己有用感と高校生としての自覚をもたせるため、英語の授業中以外、教員が生徒に対して(姓でなく)名前で呼ぶことを原則禁止とし、ほめるときには「ありがとう」の言葉を添えるように努める。	ア 指標なし イ・中学校以前に不登校・いじめられ経験をもつ新入生の登校改善維持(平成27年度入学生は全員が改善) ・停学人数10%減(平成27年度は前年度より22%減)と総停学日数10%減をめざす。 (2) ア・総遅刻回数・欠席日数とも前年比各15%減(平成27年度は前年度に比べ各22%減・32%減) イ ・全学年生徒対象部活動紹介を継続実施する。(全員体験入部2日) ・校長による日々の部活動練習状況の巡回観察と公式試合応援の継続 ・部活動加入率65%(平成27年度58.9%) ウ 評価指標なし ・保護者対象学校教育自己診断で、学校に対する満足度90%(平成27年度85.8%) ・生徒対象学校教育自己診断で、成城高校に「入学してよかったと思う」回答80%(平成27年度は63.4%) ・中退率維持(平成27年度は0.7%)	
--	---	---	---	--

3 進路保障	(1)学力充実 ア 0 限目学習の 2・3年生参加者 増加 イ 公開授業・研究 協議の維持 ウ 各教科で宿題を 課す等、授業以外 の家庭学習等の時 間を増加させる工 夫を行う。 エ 「アクティブラ ーニング」の積極 的实施	(1) ア・27 年度の 1・2 年生への指導を継続する。 イ・「新人育成プロジェクト」が中核となっ た取り組みの継続 ウ・各教科で宿題を課すことについて、全教 員の実施状況チェック ・授業以外の家庭学習等の時間に関する生 徒対象の継続アンケート エ・先進校に習うため教員の派遣研修実施	(1) ア・0 限目学習の参加者 を 2 年生・3 年生各 90%・85%(平成 27 年 度 2 年生・3 年生各 85%・50%の生徒が参 加) イ・公開授業 65 講座(平 成 27 年度約 58 講座)、 また全教員参加グルー プワーク型研究協議維 持(平成 27 年度年 3 回 実施) ウ 評価指標なし エ・100%講義型授業を廃止 し、ペア学習・グルー プ学習当の有効的な実 施 ・生徒対象学校教育自 己診断で、「授業が充 実している」回答 65%(平成 27 年度は 全学年合わせて「充 実している」58.2%)	
	(2)進路指導体制強 化による進路未決 定者の減少 ア 進路指導部主導 型の進路指導体制 構築 (3 年間の進路指導計 画作成)	(2) ア・大学・短大進学、就職・公務員・専門学 校、看護医療の 4 つの係に担当を明確化 し、学年団への指導と進路希望別に生徒 への直接指導を行う。	(2) ア・難関大学進学 3 名(平 成 27 年度 0 名)、保 育士・看護師・栄養 士を標榜する短大進 学 8 名(平成 27 年度 4 名)、看護師・リハ ビリ・レントゲン技 師・柔道整復師・臨 床検査技師等有用な 医療系専門学校進学 8 名(平成 27 年度 4 名)	
	イ 優良企業就職実 現のための取組み 強化 ウ 資格取得・検定 試験合格に向けた 取り組み維持	イ・学校斡旋就職希望者への指導強化 ・関西に本社をもつ優良企業の求人を 2 社以上増やす。 ウ・生徒・保護者への周知・指導強化	イ 評価指標なし ウ・資格取得者・検定試 験合格者のべ 500 名 (平成 27 年度 400 名) ・進路未決定卒業生維 持(平成 27 年度 2%)	

に見守られ地域に貢献できる学校づくり	4 平成二九年度本校近隣の高校がESとして再編されることに向けた情報宣伝活動の強化と、地域	(1) 平成 29 年度入学者選抜志願者確保 ア 「チーム成城」での組織的な情報発信	(1) ア・学校訪問件数維持 ・学校説明会や地域における説明会への組織的な取り組み。 ・教員自らが自校の強みを理解し、中学生とその保護者へアピールすることで課題発見の機会とし、今後の取り組みを考える。 ・HP の充実	(1) ア・中学校進路指導主事訪問 50 校（平成 27 年度 39 校） ・中学 2 ・ 3 年生徒・保護者・中学校教員け学校説明会を 7 回実施し、2000 名の参加者を募る。（平成 27 年度は生徒・保護者向け 10 回約 1800 名、中学校教員向け 2 回・学習塾関係者向け 1 回合計 80 名参加） ・中学校 PTA 協議会主催進路説明会 12 回・中学校での生徒・保護者対象説明会 6 回（平成 27 年度は各 11 回・ 9 回） ・平成 29 年度入学者選抜において入学者選抜志願倍率 1.8 倍(28 年度入学者選抜 2.18 倍) ・行事等の実施後速やかにアップする。（翌日アップを目標）	
		イ 地域に見守られ、地域とともに成長する学校づくり	イ・地域の諸機関・事業所との交流・連携 ・文化祭・体育祭の地域等への門戸開放を一層進める。	イ ・地域の祭り、自治体の催し物への積極的参加。（平成 2 7 年度実績なし） ・文化祭・体育祭来場者数 1000 名(平成 27 年度は 814 名)	